

事業報告書

【スポーツ団体スポーツ活動助成】

助成事業細目	国際スポーツ会議開催事業		
助成事業者名	公益財団法人 日本卓球協会		
事業名	JTTAスポーツ医科学委員会国際会議		
開催会期	平成 27 年 9 月 20 日 ~ 平成 27 年 9 月 21 日		
開催地	東京都北区		
実施した事業の成果	<p>会議参加者は昨年比56%増加、国際卓球連盟スポーツ医科学委員会（ITTFSSMC）委員12名中9名の招聘に成功した。実質的活動を行っている委員の欠席は1名のみであり、ITTF SSMCでの日本のプレゼンスは間違いなく高まった。将来の委員長ポスト獲得、現ITTF副会長職の維持に十分寄与できる内容であったと自負している。会議の討論の質も明らかに向上していた。今回の会議を契機として日本の研究者1名の国際共同研究参加が決まった。また、今回の研究成果をもとに1件のITTFへの提言（成長期であることに配慮したジュニア国際大会の運営）が行われる予定である。国内研究者に対して大きな刺激、チャンスを与えている。</p>		
実施した事業に対する評価	<p>会議の内容について、参加者（日本人研究者、海外からの招聘研究者）から高い評価が与えられた。アンケート集計結果を参照いただきたい。 ITTF CEO、ITTF SSMC 委員長からも高い評価を受けた。ITTF ホームページおよびCEOからのe-mailを参照されたい。 また、最終日会議終了後のITTF医科学委員会委員との会食にはITTF副会長の臨席を賜った。</p>		
		平成27年度目標	平成27年度実績
	参加国・地域数	13 力国	11 力国
	総参加人数	40 人	50 人
	ボランティア人数	8 人	8 人
実施した事業の内容	〔実施事業の内容〕		
	出席者の範囲	国際卓球連盟役員、国際卓球連盟スポーツ医科学委員会委員長・委員、各国卓球協会スポーツ医科学委員会委員等、日本卓球協会スポーツ医科学委員会委員等	
	主な議事内容	<p>1. スポーツ医科学研究の発表と質疑応答 スポーツ医学、スポーツ心理、スポーツ栄養、スポーツ科学、アンチドーピングの各分野について、国内研究者から10件、海外研究者から8件の研究発表が行われ、各発表の後にディスカッションが行われた。 2. ITTF医科学委員会 委員長によるkey note lectureをもとにした討論 障がい者卓球を含む卓球選手における薬物使用の問題を論議した。 3. 特別講演 東京大学・NHKの共同研究事業『高速移動体を追従するカメラ技術についての講演と実演』実際の卓球選手のラリーを撮影し、日本の最先端技術を紹介した。</p>	
〔会議開催に係る助成事業者の組織体制及び関係機関との連絡体制〕※組織体制図を添付すること。			
<p>日本卓球協会は会議の主催者として全ての面でイニシアティブをとった。企画、運営についてはスポーツ医・科学委員会が担当し、海外からの研究者の招聘、会議のプログラム策定を行った。海外から来日する研究者の入国からホテルまでの送迎、滞在中の諸事対応、会議当日の進行、討論の管理そのすべてを委員会委員とボランティアが担当した。</p>			